

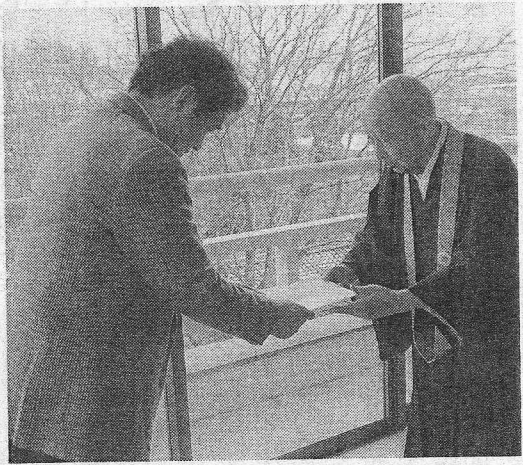
# 比台風被害に義援金 7団体に850万円寄託

## 天台宗一隅運動総本部

昨年11月上旬、フィリピンを中心とする東南アジア地域に甚大な被害をもたらした台風30号。天台宗一隅を照らす運動総本部（横山照泰本部長）の地球救援事務局では全末寺に被災者救援のための浄財勸募を呼びかけて緊急支援を行った。全国から義援金867万5288円が寄せられ、同本部では救援活動を展開している関係各団体に寄託

することを決定した。

被災地で巡回診療などを行う多国籍医師団・アマタに200万円、仏教NGOネットワークに200万円、シャンティ国際ボランティア会に100万円、日本ユニセフ協会に100万円、全日本仏教会に100万円、日本赤十字社に100万円、チャイルド・ファン ド・ジャパンに48万2256円を寄託。16日には



宗務庁で挙行された義援金贈呈式

一隅を照らす運動の理事が滋賀県大津市の天台宗務庁で開かれ、森川宏映・同運動会長からアムダの菅波茂代表に義援金の目録が手渡された。

菅波代表は「困っている人を助けるとき、『どうしてあなたは私を助けるのですか』と尋ねられま

す。日本をはじめアジア諸国には『困ったときはお互い様』という相互扶助の考えがあります。『今、あなたが困っているから私たちは来ました。将来、私たちが困ったときにはぜひ来てください』と伝えますと、アジアの人たちは納得して、私たちの援助を助けてくれます。こうした中で宗

教や民族、孝つても人間と感を作っているには様々なことに言及は日本仏教の照らす運動と平和のためにことを誇ります」と述べ